

「新たな住まい」と森林資源循環による持続可能な地域の形成

研究目的

北海道では、経済成長期以降の産業構造の転換（一次産業から二次、三次産業へのシフト）、情報産業への移行、地域の人口減少、少子高齢社会の進行等により、地域産業の地盤低下が著しい状況です。このような社会経済情勢の中、林業・林産業分野では、道内人工林資源の充実を背景とした森林・林業の再生の機運が高まっています。

森林資源の資源循環を促進させ、持続的かつ活力ある北海道の地域産業の形成を目指し、北海道の各地域における「新たな住まい」を構築して住宅関連産業と森林関連産業が融合した基幹産業とするための技術開発を行い、その展開方策を明らかにすることを目的とします。

研究概要

この研究では住要求の変化や地域特性への対応等、これからの北海道に求められる「新たな住まい」を明らかにし、その実現に向けて、道内森林資源を活用した工法や部材の開発、住宅の環境負荷低減を高める技術開発を行います。さらに森林資源の建築用材への利用拡大に向けて、4機関が連携し、高品質な道産木材を低価格にて供給できる体制づくりと原料の安定供給を実現する森林資源の管理手法の開発を行い、住宅と建築用材供給システムによる「森」と「住」の循環システムの構築とビジネスモデルの提案を行います。

今年度は、「新たな住まい」の検討に向けて、居住者ニーズ基本調査、住宅需要調査、住宅生産者アンケート、戸建住宅工法アンケート等を行いました。

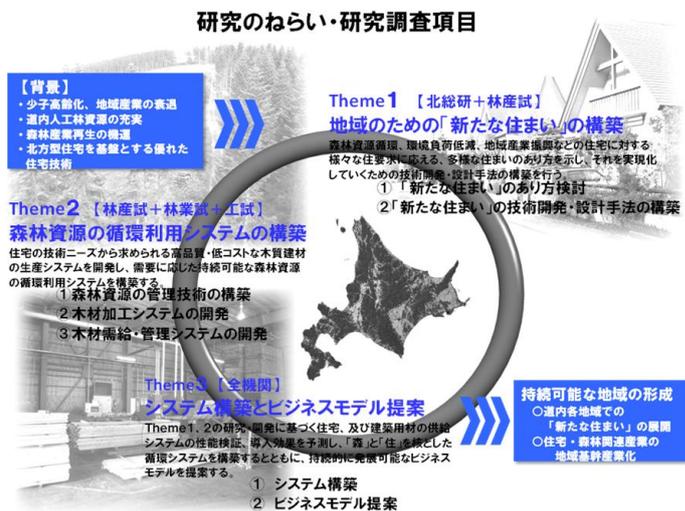


図1 研究の概要（研究のねらい・研究調査項目）

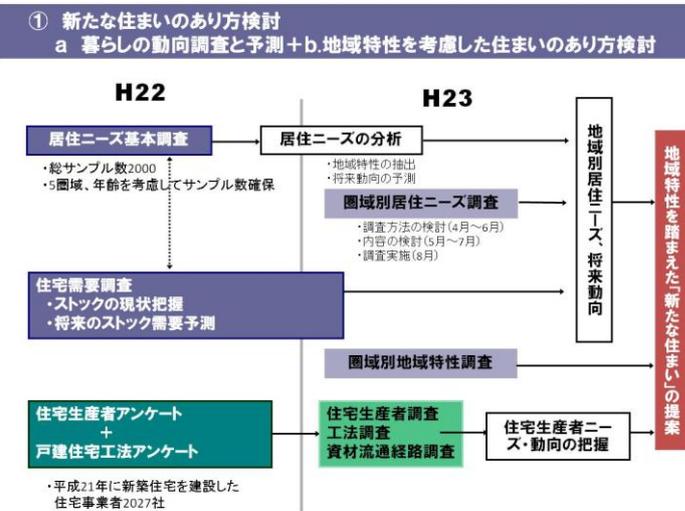


図2 「新たな住まい」の検討フロー

研究の成果

今年度は、「新たな住まい」を検討していくにあたって、様々なアンケート調査を実施し、居住者ニーズ、住宅需要、住宅生産者、戸建住宅工法の実態を把握することができました。

来年度は、今年度アンケート調査で得られた情報をもとに、住宅計画、住宅の室内環境、住宅の運用エネルギーコストと環境負荷の低減、新しい木質構造システム、木質建材の新たな適用可能性、住宅の性能表示とユーザーのための情報提供のあり方など、多岐にわたる視点から「新たな住まい」にむけた検討を行っていく予定です。